

高校生6,356人に
聞きました。

「暇な時、何をしていますか？」

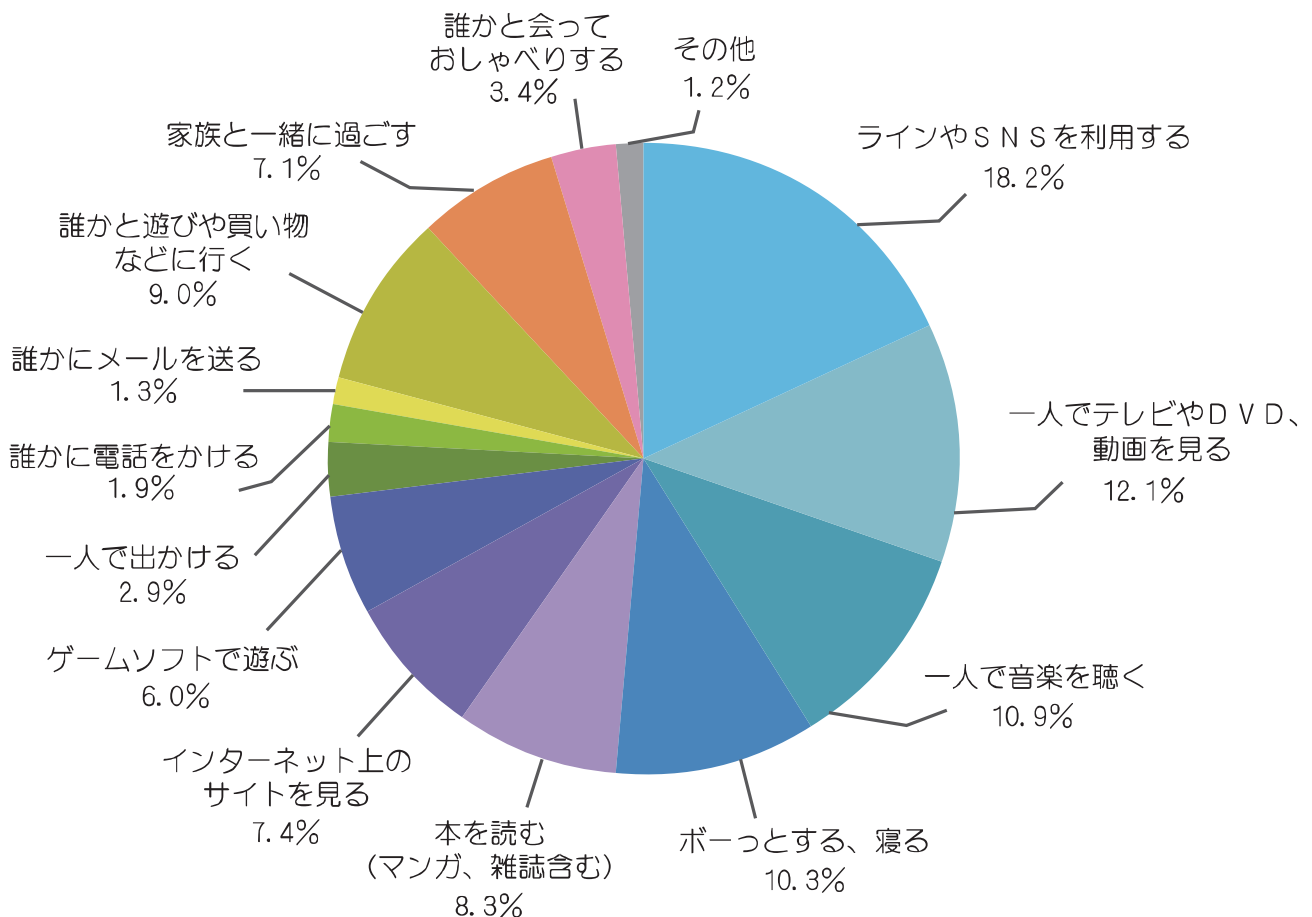
～余暇の過ごし方から見た、現代の若者考～

仕事柄、年間何十校となく学校にお伺いいたします。そうすると、学校の風景や、子どもたちの醸し出す雰囲気、いつの間にか変わってしまっていることに、ふと気づくことがあります。

たとえば、ふた昔前の子どもたちは、昼放課でなくても、ちょっとした時間があると、ボールを持って運動場に駆けていきました。そんな少ない時間に、何も運動場まで出ていなくても良さそうなものですが、わずかな時間を惜しむように駆けていったものです。今どきの学校で、閑散とした校庭を見るが多くなったのはどうしたことでしょう。この一見些細な変化の背景には、もしかしたら大きな子どもの変化が横たわっているかもしれません。

さて、SKKでは平成28年に高校生を対象としたアンケート調査を実施しました。その内容は至ってシンプルで、「あなたは暇な時に何をしていますか？」というものです。何をしてもよい、自由な時間が与えられた時に、どんなことをしているのかを調査したわけです。その結果、高校生男女6356名より有効回答を得ることができました（下グラフ）。

このグラフを見て気付くことがあります。それはグラフ上、時計回りで示された「ラインやSNSを利用する」18.2%、「一人でテレビやDVD、動画を見る」12.1%、「一人で音楽を聴く」10.9%、「ボーっとする、寝る」10.3%、「本を読む（マンガ、雑誌含む）」8.3%、「インターネット上のサイトを見る」7.4%、「誰かと遊びや買い物などに行く」9.0%、「誰かと会っておしゃべりする」3.4%、「家族と一緒に過ごす」7.1%、「誰かにメールを送る」1.3%、「誰かに電話をかける」1.9%、「一人で出かける」2.9%、「ゲームソフトで遊ぶ」6.0%、「誰かに電話をかける」1.9%、「誰かにメールを送る」1.3%、「誰かに電話をかける」1.9%、「一人で出かける」2.9%、「ゲームソフトで遊ぶ」6.0%、「インターネット上のサイトを見る」7.4%、「本を読む（マンガ、雑誌含む）」8.3%、「ボーっとする、寝る」10.3%、「一人で音楽を聴く」10.9%、「一人でテレビやDVD、動画を見る」12.1%、「ラインやSNSを利用する」18.2%、「その他」1.2%。



その合計は79.3%になるのですが、これらに共通しているのが、

“直接、誰かと会っていない”

ということです。

それに対して、「誰かと遊びや買い物などに行く」9.0%、「家族と一緒に過ごす」7.1%、「誰かと会っておしゃべりをする」3.4%は、直接人と会っています。

79.3%の高校生が、暇な時間ができたのに、友だちであれ、誰であれ、直接会ってコミュニケーションをとっていないというのが今の時代のようなようです。ここで、「電話や、メール、インターネットで行うSNSなどは、他者とやり取りをしているのではないか？」という疑問があるかもしれません。これらは、心理学では『疑似コミュニケーション』と総称され、コミュニケーションのほんの僅かな部分を取り出して利用しているのにすぎないものとされています。本当のコミュニケーションは、人と人が向かい合ってなされるもので、言語のみならず、表情や、雰囲気、抑揚といった、非言語による微かなやり取りを、五感に頼って行っているのです。

街の隅っこで大した用もなさそうに見える若者が、一心不乱にSNS(ラインなど)にメッセージを打ち込んでいる、そんな光景を見慣れてしまって、「SNSなんかしてないで、暇なら会えばいいのに。」という疑問を、我々も持たなくなっていました。もちろん、SNSもメールも便利な道具であって、それ自体悪いものではありません。しかし、それだけでコミュニケーションが取れているわけではありません。SNSの達人になることができたとしても、社会に出てコミュニケーションがうまくいく保証はないのです。

なぜ高校生は、間接のコミュニケーション(疑似コミュニケーション)を志向するのでしょうか。それは、生のコミュニケーションが要求する面倒さ、煩わしさを避けたい、いえ、もっと言えば、

生のコミュニケーションの持つ「痛み」が怖く、そこから逃げたい

ということではないでしょうか。ここ数年で急速に発展してきたSNSという道具が、高校生たちにとって、コミュニケーションの美味しい部分だけ抽出して味わい(味わった気になっているだけかもしれませんが)、適度に距離が保てて、孤立を防ぎつつ、イヤな情報は遮断できる、何やら妙に便利なツールとして進化しているようにも思えます。伝え聞くとこころによれば、高校生たちの中では、SNSで友だちにメッセージを送ったのに返信してもらえないということは大問題なのですが、返信が来なくても自分が傷つかないようなメッセージの送り方まで、工夫されているようです。何だか、お互いに殻にこもった同士が、やり取りしているようにも思えてきます。

懇意にいただいていた高等学校の相談部の先生が、10年以上も前にこのように言われたのを覚えています。「最近の男子は優しくなった、っていうでしょう？あれは嘘だよ。自分が傷つきたくないんだ。自分が傷つきたくないから、上っ面で付き合っているんだ。」

さすがに卓見だったと思います。

ふた昔前までは、何かをしなくても勝手に身につけていた「コミュニケーション能力」ですが、他の能力と同じように、一度楽をすることを覚えてしまうと、どんどん能力は衰退してしまいます。その結果、学びをしたり、相応のトレーニングを受けたりしないと、コミュニケーション能力は身につけられなくなっており、返って楽ができていないという皮肉なことになっています。程々のところで、楽をすることにも歯止めをかけておくことが、小さな叡智なのかもしれません。

- ・許可なく別媒体への掲載や、アップロードはご遠慮ください。
- ・引用もしくは参考文献としての利用を希望される場合は、お手数ですがNPO法人メンタルぶらす協会 Reforest 事務局までご連絡ください。